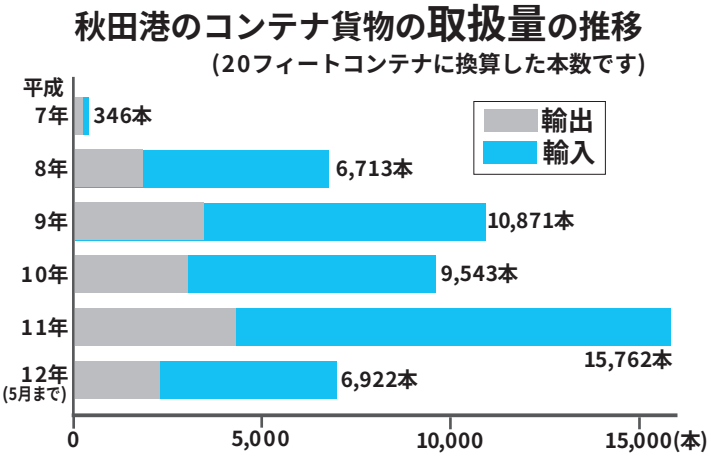
カラフルなコンテナが積み上げられている秋田港

平成11年実績 好調
年間15,762本、165億円

秋田港の港湾道路を車で走ると、外国語の文字が書かれたカラフルなコンテナが目にとまります。世界を旅する貨物運送用のコンテナです。あの大きな箱にいろいろな品物を詰めて船に乗せ、輸出したり、輸入したりするのがコンテナ貿易です。

コンテナは長さが二十フィート(約六メートル)と四十フィート(約十二メートル)の二種類。中に入れる品物は木材製品、紙、石材、機械類、衣料品など、なんでもOK。冷凍コンテナもあるので、食料品も大丈夫です。

コンテナ貿易は、一本単位で簡単に品物の取り引きができるので、いわば海外との「宅配便」といったところ。この手軽さと秋田港の近さがコンテナ貿易の売り物です。



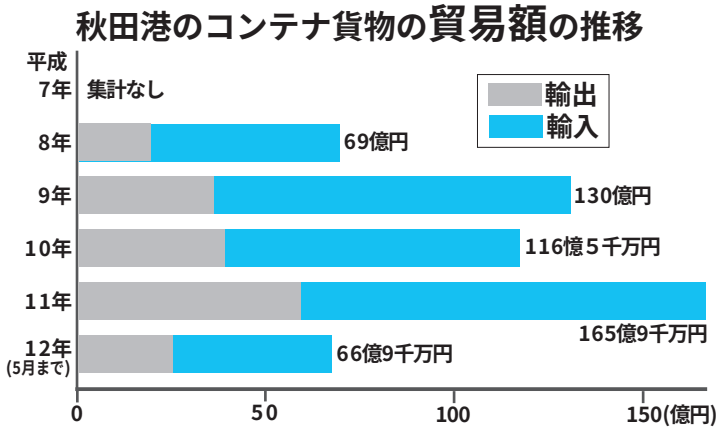
世界で国際海上コンテナ輸送が開始されたのは一九六六年ですから、その歴史はまだそんなに長くありません。しかしコンテナ輸送は従来の貿易船に比べ荷役効率がたいへん高いので、今ではわが国の海上輸送において、海上定期貨物量(重量ベース)の約九割、海上貿易額の四割以上を占めるに至っています。

釜山航路とポシェット航路で高まる物流拠点機能

秋田港には現在、釜山港との間に週四便、ポシェット港との間に月三便のコンテナ便が就航しています。船の便数も増えてきたので、東京港や横浜港から秋田港に切り替える県内業者もでてきました。東京方面から秋田までの陸送費用を考えると、近くの秋田港を使った方が全体の運送費用が安くて済むからです。ちなみに秋田港～釜山港間のコンテナ一本の輸送料は、中身にかかわらず約七百ドル(七～八万円)と、意外に安い値段です。

秋田港のコンテナ輸入の主力は、住宅建築に使う製材で、およそ六割を占めます。北欧産のものが多く、値段が安く、品質も良いので多くの需要があります。そのほか墓石の石材やガラス、大豆、そば粉、漁網などの輸入にもコンテナが使われています。

一方、輸出は輸入ほど取扱量が多くなく、東北製紙が中国や東南アジアに輸出しているダンボール原紙などが約六割を占めます。そのほか県内の工場で生産されるジーンズなどもコンテナで輸出されています。



秋田市貿易振興ビジョンで港の活性化をはかります

これらの輸出入の中心は釜山航路で、昨年八月に開設されたポシェット港はいま開発段階。中国東北部と隣接し、大陸と秋田を最短の二日で結ぶポシェット港にも大きな魅力があり、中国産の野菜や加工食品などの輸入が検討されているところです。

秋田港を舞台に年間百六十億円余の物資が動いているコンテナ貿易。市では「秋田市貿易振興ビジョン」に基づき、秋田港の活性化をはかっています。

港湾貿易振興課☎(866)2164